News Release

No. 26-0145HG
報道関係各位
2026 年 11 月 27 日
ヒューマンホールディングス株式会社

教わる側から教える側へ　車いす特有の視点を体感した生徒が、体験会を企画・運営
～パラアスリート社員・橘　貴啓が伴走した全 6 回の特別授業、SELFing（なりたい自分）を起点にした探究学習を完走～

教育を中心に人材・介護・保育・IT・美容・スポーツ事業を傘下に持つヒューマンホールディングス株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：佐藤　朋也、以下「当社」）は、さいたま市立大宮国際中等教育学校（埼玉県さいたま市大宮区、以下「同校」）の探究学習プログラム「共生とは？」で、車いすスポーツ分野の特別授業を担当してきました。講師は、当社のパラアスリート社員で車いすバスケットボール選手の橘　貴啓です。このたび全 6 回の授業を終えましたので、生徒の学びの様子をお知らせいたします。

授業は、当社のバリュープロミス「SELFing」をもとに、生徒一人ひとりが「なりたい自分」を考えるところから始まりました。その後、生徒は競技用車いすでの車いすバスケットボールやボッチャを通じて、車いす特有の制限や視点を体感し、工夫を重ねてきました。11 月 19 日（木）の最終回では、生徒自らが体験会を企画・運営し、ほかの分野を学んできた生徒に車いすバスケットボールを伝えました。

【本件のポイント】

- ●全 6 回の授業で「教わる側」だった生徒が、最終回で体験会を企画・運営し、「教える側」に
- ●車いすではシュートが届きにくいという自分たちの体験から、ゴールにフラフープを掛け、通せば 1 点とする独自ルールを考案
- ●振り返りアンケートでは回答者全員(40 人中 40 人)が、障害やパラスポーツの見方が「変わった」と回答





【本件の背景】

同プログラムには、同校の 5 年生（高校 2 年生にあたる学年）150 人が参加し、「デフスポーツ」「ブラインドスポーツ」「車いすスポーツ」の 3 分野に分かれて取り組みました。当社は車いすスポーツ分野を担当し、50 人の生徒に全 6 回にわたって伴走しました。

橘は 2025 年 11 月、当社グループ初の「アスリート雇用」制度で入社しました。人事部に所属しながら、車いすバスケットボール選手として競技を続けています。

この特別授業は、当社のバリュープロミス「SELFing（セルフィング）」を軸に組み立てています。「なりたい自分」を描き、そこから逆算していま何をするかを考えるという、当社が社員の成長支援に用いている考え方です。生徒が「共生社会の実現のために自分にできること」を、自分自身の「なりたい自分」に引き寄せて考えられるよう設計しました。

■本件に関するお問い合わせ■　ヒューマンホールディングス株式会社　担当：若林・田野倉
TEL：03-6846-8002　FAX：03-6846-1220　E-mail：kouhou@athuman.com

【授業の経過と生徒の変化】

■第 6 回（最終） 11 月 19 日（木）「生徒の企画したパラスポーツ体験会の運営」

これまで「教わる側」だった生徒が「教える側」に回り、ほかの分野のパラスポーツを学んできた生徒に向けて体験会を開きました。

運営は 2 グループに分かれて行いました。どちらのグループも参加者を班に分け、シュート練習や車いす体験などを班ごとに分担して教えました。一方で、ルール説明を参加者全員にまとめて行う、パス練習を取り入れる、試合を参加者同士で行うか運営側との対戦にするかなど、グループごとに異なる工夫もありました。

2 グループとも、ゴールにフラフープを掛け、フープを通せば 1 点とする独自ルールを取り入れました。車いすに座ったままではシュートが届きにくいことを、運営する生徒は自分たちの体験から知っていたためです。車いすの操作体験では、安全のため足を車いすのフレームから出さないよう、参加者に丁寧に説明していました。

体験会の後には、それぞれの分野を体験した生徒同士が、体験した内容を話し合う場も設けられ、活発に意見が交わされました。

■全 6 回を通じた生徒の立ち位置の変化

第 1～2 回 「なりたい自分」を描き、自分の体で知る
第 3～5 回 制限を工夫で越え、ほかの場面にも当てはめる
第 6 回 学んだことを、ほかの生徒に伝える

【生徒の声】

第 5 回の授業後に実施した振り返りアンケート（※）では、回答した 40 人全員が、障害やパラスポーツの見方が「変わった」と答えました。体験会で取り入れたい工夫や、授業の感想として、次のような声がありました。

・「スポーツが苦手な人にとって『配慮されて』役割を与えられるのではなく、『その人でないといけないから』役割を与えられるようなルール作り」

・「制限があるからこそ全力で楽しめないんじゃないかと最初は感じてしまっていましたが、どう楽しむのか、どう安全にやるのか、どう勝つのかを熱心に教えてくださるうちに、指数関数的に楽しくなっていきました」

最終回の総括では、生徒代表が、共生というテーマをグループで話し合って考えを深めるだけでなく、得た気づきや学びをほかの人に伝え、輪を広げるところまで実践できたと振り返りました。

※振り返りアンケート：2026 年 10 月 29 日に、車いすスポーツ分野の生徒 40 人を対象に実施

■パラアスリート社員 橘 貴啓のコメント

毎回の授業では、「他人事から自分事に」「相手の特徴を知ろう」といったテーマを設けてきました。その結果が、体験会の内容に表れていたと思います。ここで学んだことを、多様な未来へ広げていってほしいです。

■さいたま市立大宮国際中等教育学校 国際バカロレア コーディネーター シーマンズ ブラッド様より

本校は国際バカロレア（IB）中等教育プログラム（MYP）の認定校として、計画・探究・行動・振り返りを重ねる学びを大切にしています。今回の授業で生徒は、SELFing シートで「なりたい自分」を考えるところから始め、実際に車いすに乗ることで、立場が変わると見え方が変わることを体で知りました。最終回では、その経験をもとに参加者に合わせたルールを自分たちで考え、ほかの分野を学んだ仲間に伝えていました。IB の学習者像にある「思いやりのある人」「コミュニケーションができる人」に向かう姿だったと感じています。



■本件に関するお問い合わせ■ ヒューマンホールディングス株式会社 担当：若林・田野倉
TEL：03-6846-8002 FAX：03-6846-1220 E-mail：kouhou@athuman.com

本取り組みの第 1 報・第 2 報はこちらからご覧いただけます。
【第 1 報】パラアスリート社員が「共生」と「SELFing（なりたい自分）」をつなぐ探究学習講師に～埼玉県出身の車いすバスケットボール選手・橘 貴啓が、さいたま市立大宮国際中等教育学校で全 6 回の特別授業に伴走～

【第 2 報】車いすで知った視点が、ほかの分野を考える入口に～パラアスリート社員・橘 貴啓と学ぶ「共生」とSELFing（なりたい自分）全 6 回の特別授業、4 回を終えて～

■パラアスリート社員 橘 貴啓（たちばな たかひろ）プロフィール

ヒューマンホールディングス株式会社
人事部 人材マネジメント課所属
SELFing アンバサダー
車いすバスケットボールチーム「NO EXCUSE」プレーヤー



1986 年、埼玉県出身、現在も埼玉県内に在住。20 歳のときに事故で車いす生活となる。入院中に車いすバスケットボールと出会い競技を始めるが、学業と就職のため約 6 年間競技から離れる。28 歳のとき、再び挑戦するためアスリート雇用制度のある企業に転職して競技に本格復帰。2025 年 11 月、当社グループ初の「アスリート雇用」制度で入社し、人事部に勤務しながら競技活動を続けている。背番号は、あこがれの NBA 選手デニス・ロッドマンがシカゴ・ブルズで付けていた 91 番。

■ヒューマングループについて

1985 年の創業以来「為世為人（いせいいじん）」を理念に掲げ、教育を中核に人材、介護、保育、IT、美容、スポーツと多岐にわたる事業を展開しています。

深刻な社会課題である「労働人口減」に対し、各事業の専門性を活かした 4 領域で解決を推進しています。教育・人材事業による「海外人材の活用」「成長産業分野の専門教育と労働移動」、介護（通所・訪問・ホスピス等）や保育・学童運営による「国内労働力の確保」、RPA・AI・IT 活用を通じた「生産性の向上」に注力。
SDGs への貢献を通じて、誰もが自分らしく生き、学び、働ける社会の実現と、時代に即した労働環境の革新に取り組んでいます。
●ヒューマンホールディングス ウェブサイト：https://www.athuman.com/

会社概要

ヒューマンホールディングス株式会社
●代表者：代表取締役社長 佐藤 朋也
●所在地：東京都新宿区西新宿 7-5-25 西新宿プライムスクエア 1 階
●資本金：12 億 9,990 万円 ●URL：https://www.athuman.com/

■本件に関するお問い合わせ■ ヒューマンホールディングス株式会社 担当：若林・田野倉
TEL：03-6846-8002 FAX：03-6846-1220 E-mail：kouhou@athuman.com